

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life

開祖隨感



リーダーの資格

指導的な立場の人が見えなければならないものとして、先見性とか決断力とか、いろいろ挙げられます。なかでも、これを見えなくては長の資格はないという、いちばん大事なものはなんでしょうか。それは、人びとの信頼だと私は思うのです。

みんなの信頼が得られなくては、どんなに立派な言葉を並べて説得しようとしても、人の心に届きません。心から信頼されているリーダーならば、たったひと言で相手を変えてしまうこともできるのです。

では、その信頼はどこから生まれるのかというと、まず第一に、正直であることです。表から見ても裏

から見ても少しの違いもない。それからもう一つ、なによりも人を大切にする心を持っていることです。

上の人に^もは揉み手をしてすり寄るけれども、部下に向かうとガラリと態度が変わって怒鳴りちらすというような人は、論外です。それは、自分の立場ばかりを大事にする人です。リーダーは、自分を捨ててみんなの幸せを考える人でなくてはなりません。幸せも成功も人間関係がもと。人間関係を大事にできない人は何をやってもだめだ、と言いきってもいいでしょう。

(『開祖隨感』9 P. 154-155)

Living the Lotus
2018年7月号 (Vol.154)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: [living.the.lotus.rk-international
@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

編集責任者: 斎藤高市
編集チーフ: 金尾江利子
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家佛教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑑会長とともに、私たち会員は佛教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす佛教の教えをお伝えします。

和らぎをもたらす言葉

立正佼成会会长 庭野日鑛



正直に、誠実に

釈尊の基本的な教えである「八正道」の一つに、「正語」があります。真理にかなう言葉を語るということですが、私たちはふだん、そのように「正しく語ること」をほとんど意識していないのではないかでしょうか。ですから「正語」といわれても、すぐに生活実践と結びつく人は多くないかもしれません。それでも、日ごろ人と接する際、私たちはその場が和むような会話を自然にしているはずです。なぜなら、そのほうが楽しいからであり、そして、安らぐからです。

「正語」は「有益な言葉を語る」と受けとめることができます。調和や和合は私たちが生きるうえでたいへん重要なこと、つまり有益なことですから、その場が和らぐ言葉は、まさに「正語」といえるのです。その意味では、だれもが知らずしらず「正語」を実践しているともいえそうです。

ただ、私たちはときに、調和や和合を乱すような言葉を使ってしまいます。その第一は、自分に都合のいい嘘をついたり、眞実を偽って伝えたりすることです。

釈尊は、在家の弟子に向けた説諭の中で、「他人に向かって偽りをいってはならない」と明言されています。また、「自分を苦しめず、他人を傷つけることのない言葉だけを語りなさい」ともおっしゃっています。嘘は他人を惑わせ、和合を破り、結局は自分を苦しめるのです。そのように考えると、「正語」を実践するうえで大事なのは、何をどう話すかということよりも、正直に生きる誠実さを忘れないことなのかもしれません。

言葉の内容ではなく、対話する相手と向きあう姿勢ということで思い起こすのは、ノーベル平和賞の選考委員も務められた、ノルウェー国教会オスロ名誉司教のグナール・スタルセット師（第三十回庭野平和賞受賞者）です。

スタルセット師は、国際会議の席で意見が分かれるようなときでも、その場をじつ

うまくまとめいかれます。とはいって、師が饒舌なわけではありません。むしろ、寡黙な
かたです。さまざまな声にじっくりと耳を傾け、求められれば穏やかに見解を述べつつ、
最後に「では、このようにしてはどうでしょうか」と、みんなに諮るのです。

立場の違う人が集まる席では、議論が紛糾することもあります。そこに調和をもたらす
のは、人の意見をよく聞いて思いを酌みとる姿勢と、自我を抑えた公平な態度から発せ
られる言葉だということでしょう。師の示すこの姿勢には「正語」の意味あいの核心が
示されていると思うのです。

かなしみを抱いて

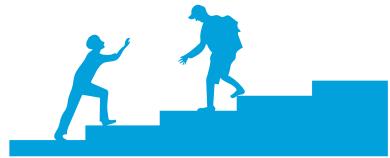
日本語で、漢字の「愛」は「かなし」といいます。愛する、慈しむということは、悲
しむということです。母親がわが子を愛おしむ心、といえばわかりやすいかもしれません。「正語」、すなわち「正しく語る」ということのなかには、そうした慈しみ、悲しむ心と、
相手の幸せを念ずる情が籠められているのではないでしょうか。

「愛語は愛心よりおこる、愛心は慈心を種子とせり」とは道元禅師の言葉ですが、
タルセツ師の言葉には、宗教者に共通する慈愛の念が籠められており、だからこそ
だれにも受け入れられるのだと思います。といえば、良寛さんが放蕩三昧の甥を改心
させたのは、説諭の言葉でも叱責でもなく、甥を思って流したひと筋の涙でした。慈愛
に満ちた沈黙によって伝わる「正語」もあるということです。

私たちの幸せをだれよりも念じてくださる両親やご先祖の愛心を、まもなく開花を迎える清らかな蓮華を愛でながら、この盂蘭盆会の時期にあらためてかみしめてみるのもいいのではないかでしょうか。

(『佼成』2018年7月号)





学林で学んだ、まごころで人に接する大切さ



デインガタンティリゲ・サハン・チャマラ
スリランカ教会

この体験説法は、2018年3月1日に大聖堂で行なわれた布薩の日ご命日式典で発表されたものです。

私は1994年、スリランカのコロンボ近郊のウエルミルラ村で、両親と兄弟三人の五人家族の長男として生まれました。

私は高校入学までに二回転校しました。二度目に転校した学校で先輩たちのいじめに遭い、お金を奪われたりすることも多く、学校へ行くのが苦痛でした。意地悪な先輩たちへの怒りがおさまらず、強くなつて仕返しをしてやろうと思い、高校の軍事教練部に入って体を鍛えました。それからの高校生活は、嫌な思いをさせられた先輩たちを相手に、喧嘩に明け暮れる毎日でした。高校卒業後、就職をしましたが、給料が安かつたため三年間で六回転職を繰り返しました。しかしどの仕事もうまくいかず、将



大聖堂で説法するサハン氏

来への不安を感じていたとき、従妹の導きで校成会に入会しました。

青年部の活動は楽しく、法座にも参加するようになりました。最初は人の話を聞くだけでしたが、ありのままの自分をさらけ出している仲間の姿を見て、それまで親に心配をかけまいと隠していた高校生の頃の荒れていた自分の姿を、法座では隠さずに安心して話せるようになりました。教会の仲間は、自分の都合はそっちのけで、人さまのためになりたいと思っている人たちばかりでした。そうした仲間たちのお陰さまで、私自身もいつの間にか人さまのことを思い、人さまのことを心配できる自分にならせていただいていることに気づきました。

教会に行くたびに、教會長さんやスタッフのルクランティさんから、道場の掃除やご宝前のお給仕、ご供養の脇導師、青年部行事の経費の管理、青年部の実行計画の立案など、さまざまなお役をいただくことができました。皆さんに信頼されていることがとてもうれしくて、信頼を裏切ることのないように、与えられたお役を一生懸命させていただきました。

入会して二年後、青年部長のお役を拝命しました。自分にお役がつとまるかどうか不安でしたが、青年部の仲間は「私たちが一緒にいるから心配いらないよ」と励ましてくれました。皆さんが支えてくださったお陰さまで、学林に入林するために日本に来る日まで、お役をつとめることができました。

学林ではこれまでたくさんの学びを得ることができました。その一つとして、布教実習で静岡県の富士

教会にお世話になったときのことをお話させていただきます。

ある日、教会の二人の信者さんに同行して、Aさんという会員さんのお宅に手取りに行かせていただくことになりました。ご一緒した信者さんのお話では、Aさんは以前主任をされていたものの、今は教会に顔を出さなくなっているとのことでした。手取りに伺っても家に上がってご供養をさせていただけるかわかりませんでした。

玄関先に出て来られたAさんに、同行した信者さんたちは「こちらの方はスリランカから教会に布教実習に来ているの」と私のことを紹介してくださいました。それまでAさんは、手取りに来る信者さんたちを家に上げたことはなく、いつも玄関先でお話をするだけだったそうですが、海外の会員が日本に学びに来ていることを喜んでくださいり、家に上げてくださいました。

家に上がり、せっかくですからご供養をさせていただいてもいいですかと尋ねると、Aさんは気持ちよくご宝前を整えてくださいました。ご一緒した信者さんたちが私にご供養の導師をするように言ってくださいり、私は日本人の会員さんのお宅で、初めて日本語でご供養の導師をつとめることができました。Aさんが私たちを気持ちよく家に上げてご宝前を開けてくださったことがうれしくて、私は感謝の心でご供養をあげました。それまで正座ができなかった私でしたが、その日は「経典」の読誦が終わるまで足の痺れに気づきませんでした。

ご供養が終わると、Aさんは私たちにお茶を入れてくださいり、教会に顔を出さなくなった理由を話してくださいました。お話を聞いていると、佼成会が大好

きなAさんの気持ちが伝わってきました。教会に顔を出さなくても、Aさんが毎日のご宝前のお給仕やご供養を欠かすことなく、佼成会の会員として日々の基本信行を続けておられることに感動しました。

教会への帰り道、ご一緒した信者さんたちは「Aさんが教会に来なくなつた理由は知っていたけれど、Aさんの気持ちを初めではつきり具体的に聞かせていただけた」と、喜んでお話をされていました。私にはなぜAさんが私たちを家に上げてご供養をあげさせてくださったのか、なぜ私たちに心を開いてくださったのかわかりませんでした。

教会に帰つてその理由について教會長さんにご指導をいただと、教會長さんから「サハン君はどんな気持ちでご供養をさせていただいたの？」と尋ねられました。私は「ご供養できることがうれしくて、一心にあげさせていただきました」とお答えしました。すると教會長さんは「最近、サハン君は『まごころ』ってなんですかとよく私に訊いていましたね。今日、Aさんのお宅でご供養したときのサハン君の心が『まごころ』なんですよ」と教えてくださいました。

この経験を通して、いろいろな才覚をめぐらさず、素直に、まごころで手取りをさせていただくことがいかに大切か学びました。スリランカにいたときは、何度電話しても行事に参加しない青年部員さんがいると、「やる気がない人」と決めつけ、声をかけるのをやめてしまっていたことを振り返り、反省しました。行事に来なくなつた部員さんがいたら誘うのをやめてしまうのではなく、自ら部員さんの家に足を運び、まごころでふれあっていく自分づくりが大切なことも気づかせていただきました。

今月、私は学林を卒業しスリランカに帰国します。

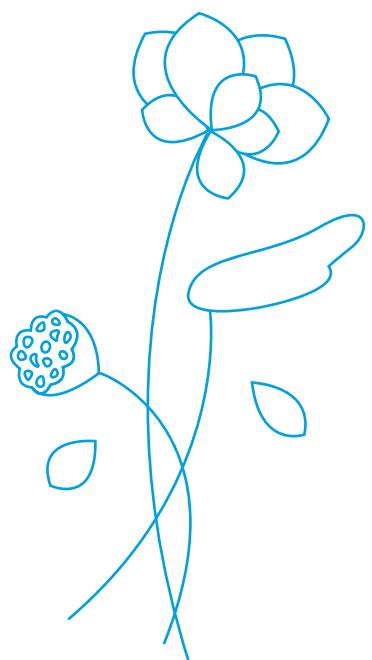
Spiritual Journey

現在、スリランカでは家庭教育講座を中心にして校成会の教えが広がっています。講座には、子ども連れのお母さんたちがたくさん参加しています。スリランカに戻ったら、子どもたちに、教えを生活の中に活かして楽しく生きる道を知ってもらえるような活動をしていきたいと思います。そのためにも、若い人たちの心を惹きつけるご法活動とは何かをよく考え、活動を通して部員さんたちの心が救われていくよう、心温かい青年部リーダーを育成できる自分にならせていただきたいと思います。

スリランカ教会の山本教会長さんが正月に日本に帰国されたとき、私は教会長さんにお会いして自分の現在の心境や願いをすべてお話させていただきました。教会長さんから「布教者として一緒に頑張りましょう」と言っていただき、スリランカ布教に向け、教会長さんに期待していたいっていることを感じました。スリランカに戻ってからは、教会長さんの手足となって布教活動をさせていただくことをここにお誓い申し上げ、説法を終わらせていただきます。皆さま、ご清聴ありがとうございました。



学林海外修養科の同期生と(右から2番目)







法華三部經 各品のあらましと要点

今月から、庭野日敬開祖の著書『法華三部經 各品のあらましと要点』を連載します。立正佼成会の所依の經典である法華三部經を学びます。

このお經の題名の〈無量義〉とはどんな意味かといいますと、〈数かぎりない意味をもった教え〉と直訳できます。そして、この《無量義經》の中で、その〈数かぎりない意味をもった教えはただ一つの真理から出てくるのだ〉ということが説かれてあります。その一つの真理というのは〈無相〉ということですが、それについて詳しくはおっしゃっておられません。それで、どうもはつきり分からぬのです。では、どこでそれが解決されるのか。もちろん、次に説かれる《妙法蓮華經》においてなのです。《妙法蓮華經》で、それをあますところなくお説きになられるわけです。そして、その数かぎりない教えは、せんじつめればこの《妙法蓮華經》に説く真理に帰するのだと、ご一代のご説法の中でも最も中心になる教えを、ここで明らかにしていらっしゃるのです。

つまり、《無量義經》の中心である《説法品第二》は、釈尊が大莊嚴菩薩の質問に対してお答えになつたものですから、よほど修行を積んだ菩薩たちでなければ、心底から理解できないものだったのです。さればこそ、釈尊のみ心の中には、次の説法の順序がちゃんと立てられてあったのです。すなわ

《無量義經》の内容は、お釈迦さまが《妙法蓮華經》の内容をお説きになる直前に、同じくマガダ国王舍城郊外の靈鷲山でお説きになったものです。その後で、長い三昧に入れ、その三昧を終えられてから、いよいよ《妙法蓮華經》を説きはじめられたのです。

そういうなりゆきから推しても、法華三部經の主軸である《妙法蓮華經》を学ぶ前に、先ずこの《無量義經》を読むのが慎重な態度であろうと考えられますが、実際に教義の内容に立ち入ってみても、《無量義經》から入ってこそ《妙法蓮華經》もほんとうによく理解できることを、しみじみ感じさせられます。

無量義とは

ち、この《無量義經》を説かれてから、いよいよその教えの根本である〈無相〉すなわち〈実相〉ということについて、どんな人にも分かるように、あらゆる角度からお説きになったのが《妙法蓮華經》にほかなりません。つまり、そこではじめて〈究極の真理〉を一般の人びとのために説き明かされたわけです。そういうわけで、《無量義經》は、それ以前の方便經からいよいよ真実經の《妙法蓮華經》を開き出すものであり、《妙法蓮華經》もこの《無量義經》から入ってこそほんとうによく理解できるという関係から、《妙法蓮華經》の〈開經〉といわれているのです。



とくぎょうほん 德行品第一

この品は、大莊嚴菩薩だいしょうごんぱさつというお方が、仏さまの完全円満な」(徳)と、衆生済度の(行)を讃歎申し上げる章です。

釈尊のお徳への讃歎

大莊嚴菩薩は、現身のお釈迦さまのお顔やおか
らだの、いわゆる〈仏の三十二相〉の立派さをほめ
たたえます。それはつまり、色身に表現されている
完全な人格への讃歎にほかなりません。そして、そ
れに續いて、次のように申し上げています。

「仏さまはこのような妙相を具えたお方ではあります
が、実は相にあらわるとかあらわれないとかといふことを超越した存在であられ、凡夫の眼では、とうていその本質を見ることはできないのです。

衆生の本質も、仏さまと同じなのですが、相ある身としてのあらわれ方が大きく違っています。仏さまは無限の徳を具えておいでになり、その徳をお相にあらわしてくださればこそ、大勢の人が歓喜して礼拝し、帰依し、尊敬し、心をこめて恭しく対し奉るようになるのでございます。それというのも、仏さまがどんなに悟られても、これで十分だというお気持を起こされず、修行に修行を積まれたからでありますて、その結果、このような、えもいわれぬ美しいお相を成就されたものとぞんじます。このようにして、ほんとうは相のない身であられるのに、相ある身として出現されるところが、わたくしどもにとって、まことにありがたいことでございます」

ここに注目すべき点が二つあります。

すがた
第一は、衆生の相も、本質的にはやはりそのとおりであるということです。衆生も本質的には仏さまと同じなのですが、修行が足らず、迷いに満ちているために、現実の身としてのあらわれは、仏さまとは比較にならぬ醜さであり、貧弱さです。本質的に仏さまと同じならば、現象としてのあらわれも仏さまと同一になる可能性はあるわけですから、一面におい

ては絶大な希望をもつことができ、一面においてはおおいに反省しなければならないわけです。

法華三部経は、終始そういう思想につらぬかれているのです。ですから、まずこの〈本質の平等相〉と〈現象としての差別相〉ということをしつかり胸に刻んでおくことが、法華三部経を読むために大切な準備となるのであります。

第二に、「(仏さまが)相ある身として出現されたところが、わたくしどもにとっては、まことにありがたい」ということです。

お釈迦さまがこの世にお出になり、修行に修行を重ねられた結果、あのような完成された人格の持ち主となられ、仏の境地に達せられたという生きた実例があるのでですから、われわれとしてはその真似をしてゆきさえすればよいのであって、お釈迦さまがたいへんご苦労なさってたどられた道程よりもずっと容易に、仏への道を進むことができるわけです。ここにお釈迦さまのご出世のありがたさがあるので。

それゆえ、われわれは、心に大歓喜をいたいで、
お釈迦さまのおすがたを礼拝し、その教えを受持
することによって、法身であられる仏さまの中へ溶け
入っていくことができるわけです。すなわち、正しい
本尊觀が、この大莊嚴菩薩の言葉に暗示されてい
るわけあります。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』)

校成出版社, 2016年[初版 1991年], P.10-16)





感謝と調和

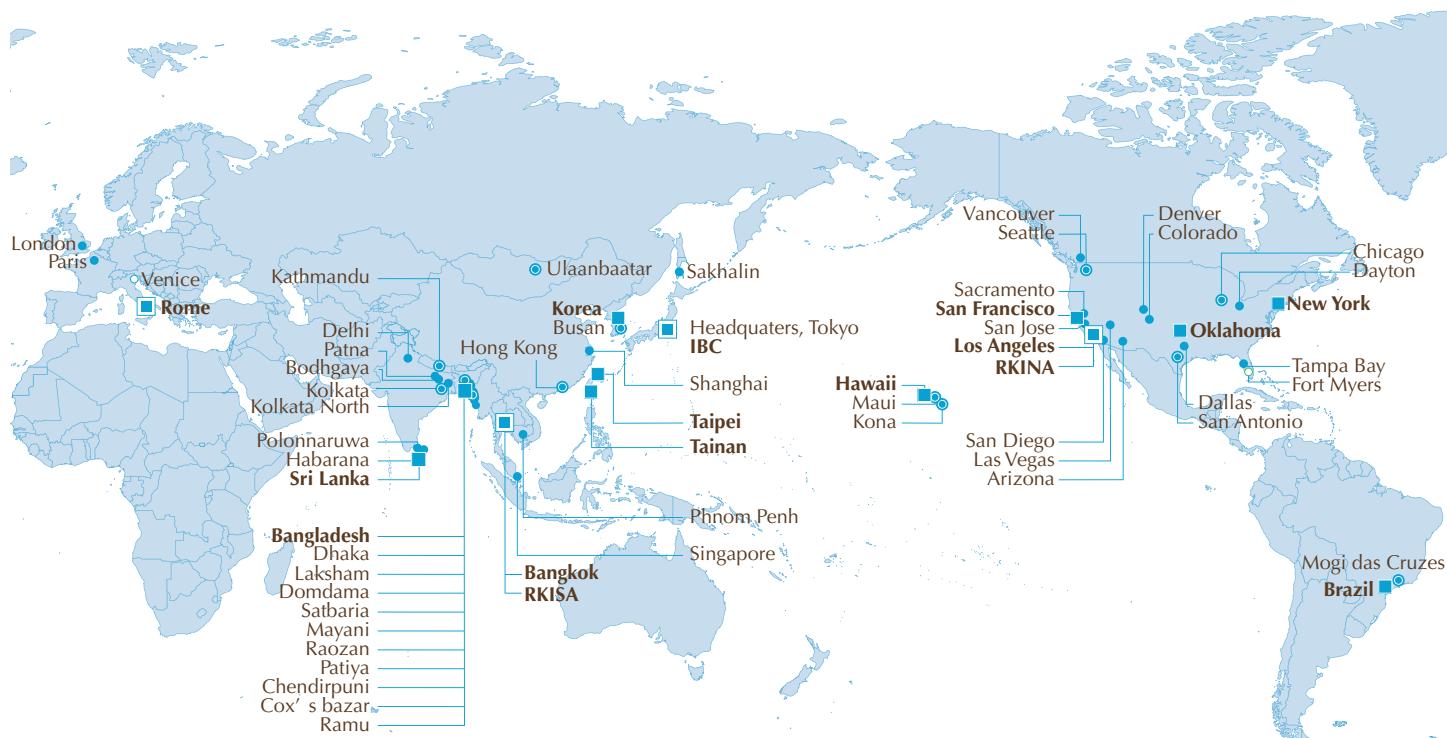
7月は盂蘭盆会の月です。あらためて、自らのいのちの尊さ・有り難さに思いを馳せ、先祖から繋いでいたいたいのちへ感謝の誠を捧げさせていただきたいと思います。

そして、目連尊者が餓鬼道で苦しむ靈界のお母さんを救うお話からは、正しいものの見方・考え方を学ばせていただきたいと思います。苦の原因は、自己中心的なものの見方・考え方です。そこから怒りや貪りの心が生まれ、やがて人との争いも生じます。

会長先生は今月のご法話で、「正語」をお示しくださっています。正しい言葉遣いとは、人の声に耳を傾け・寄り添い、自我を抑えて他と調和して生きることです。

先祖や親の愛に感謝し、他の人の調和を大切にすることを意識して過ごさせていただきたいと思います。

国際伝道部長
齋藤 高市



 RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES 



Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers 2018

Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A.
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951
e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
<http://home.earthlink.net/~rkchi/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Risho Kossei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters**Rissho Kosei-kai of Hong Kong**

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia
Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division**Rissho Kosei-kai of Delhi**

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi
110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna

Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendipuni

Chendipuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu**Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka**

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa**Other Groups**

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai